

# 株主の皆さまへ

## 第91期中間報告書

(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)

**東芝機械株式会社**  
Best Partner of Leading Industries

証券コード：6104

# 株主の皆さまへ

株主の皆さまには、平素よりご高配を賜わり、心よりお礼申し上げます。

ここに、株主の皆さまへ（第91期中間報告書）をお届けするにあたりまして、ひと言ごあいさつ申し上げます。

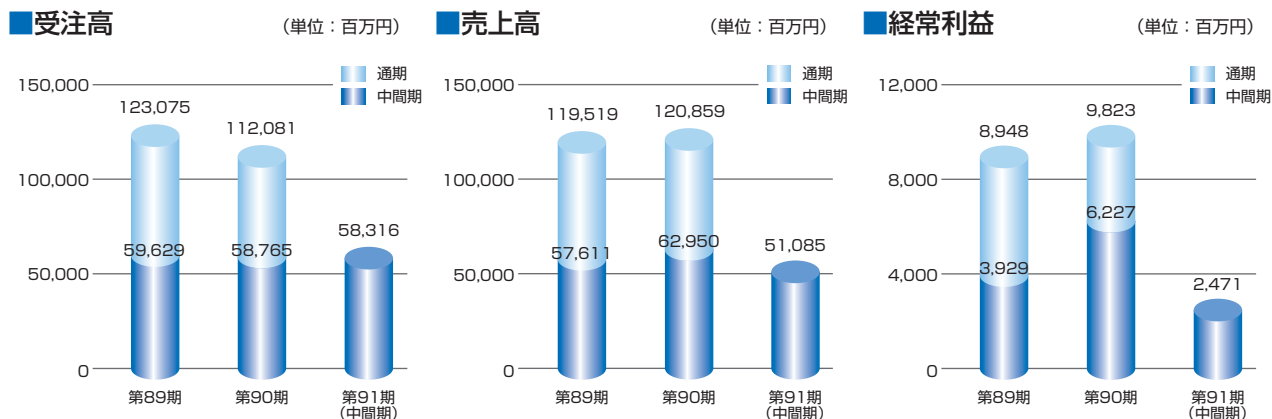
当第2四半期連結累計期間における当社グループをとりまく経済情勢は、国内市場は、政府のデフレ脱却の諸施策による円高是正や株価の上昇等の改善が見られる一方で、企業の設備投資の増加等実体経済の回復には道半ばの状態が続きました。海外市場は、北米市場は堅調さを維持したものの、欧州の景気低迷や、中国の経済成長鈍化に加え、東南アジア等の新興国についても経済が停滞いたしました。機械業界におきましても、一部に新興国や北米の需要がありましたが、世界経済の先行き不透明な状況から設備投資が伸び悩み、全体としては厳しい状況で推移いたしました。

このような経済環境のもとで、当社グループは中期経営計画「TM AC Plan Advanced I」(Toshiba Machine Adapt to the Change Plan Advanced I) を平成25年4月1日からスタートさせ、前連結会計年度に続き「先進と拡張」を基本コンセプトとして諸施策を実行し、国内外市場向けの新商品開発、市場の開拓、受注の確保、財務体質の改善等に全力をあげグローバルなブランド力の向上に取り組んでおります。



取締役社長 飯村 幸生

## 決算ハイライト



当第2四半期連結累計期間の売上高は、前連結会計年度後半の受注減少を受け、510億8千5百万円（前年同期比18.8%減）となりました。

損益につきましては、売上規模の縮小と市場環境の厳しさの影響を受けて、営業利益は、16億4百万円（前年同期比71.1%減）、経常利益は、24億7千1百万円（前年同期比60.3%減）、四半期純利益は、11億2千5百万円（前年同期比73.5%減）となりました。

今後の経済環境は、欧州の景気低迷、新興国の成長鈍化、為替変動、国内外企業との競争激化など予断を許さない状況が続くものと予想されますが、国内経済の改善に加え、海外市場でも地域、製品により受注環境に明るさが見え始めております。

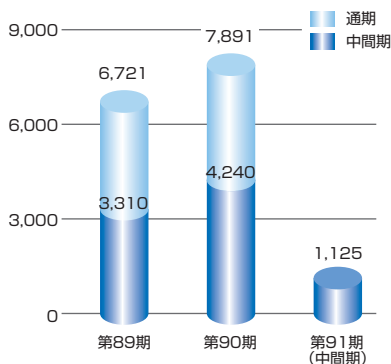
このような状況のもとで、当社グループは、有望な新市場の開拓、市場ニーズにあった新製品の投入、ブランド力の向上、さらなる効率化により確固たる経営基盤を構築し、収益確保に努めてまいります。

また、ISO9001・14001をベースとした品質・環境管理の徹底等に注力し、当社グループの将来を担う人材の育成ならびに法令遵守、社会貢献など企業の社会的責任活動にも積極的に取り組んでまいります。

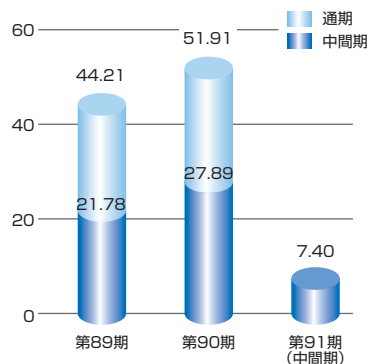
株主の皆さまにおかれましては、何卒いっそうのご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成25年12月

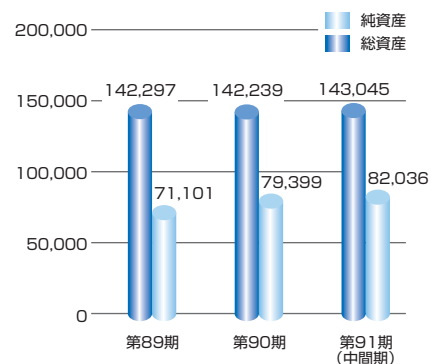
■ 中間(当期) 純利益 (単位：百万円)



■ 1株当たり中間(当期) 純利益 (単位：円)



■ 総資産／純資産 (単位：百万円)



# 事業別の概況

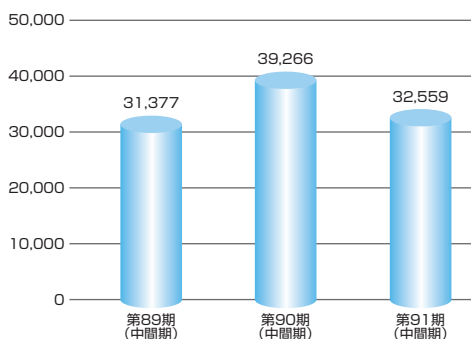
## 成形機事業（射出成形機、ダイカストマシン、押出成形機など）

射出成形機は、北米の自動車、家電関連業界向けは堅調な販売が続きましたが、中国に加え、これまで好調であった東南アジア等の新興国における販売が減少いたしました。一方、中国のモバイル機器やインドネシアの自動車、家電関連業界向け等の需要が好転し、受注は好調に推移しております。自動車、二輪車関連業界向けを主な供給先とするダイカストマシンは、中国、東南アジア等の新興国および北米での販売が減少いたしました。世界的な自動車産業の活況等により、

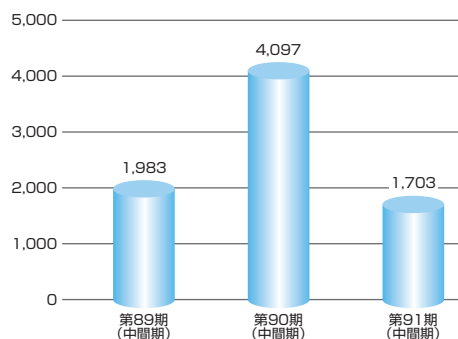
受注は国内および北米を中心に堅調に推移しております。押出成形機は、国内外の光学関連業界や二次電池向けのシート・フィルム製造装置の需要がありました。

この結果、成形機事業全体の売上高は、325億5千9百万円（前年同期比17.1%減）、営業利益は、17億3百万円（前年同期比58.4%減）となりました。

■売上高 (単位：百万円)



■営業利益 (単位：百万円)



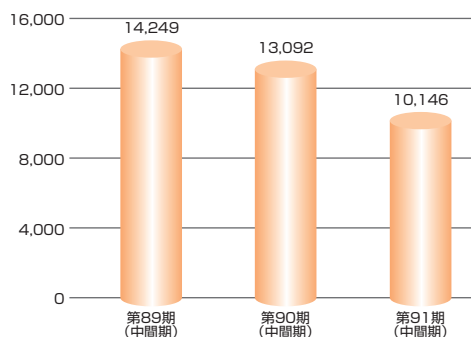
## 工作機械事業（大型機、門形機、横中ぐり盤、立旋盤、精密加工機など）

工作機械は、中国、東南アジア等の新興国における成長鈍化の影響を受け、販売が大きく減少いたしました。一方、北米を中心とした自動車・金型関連業界向けの需要増と国内の設備投資に対する助成金の効果や消費税増税前の駆け込み需要から受注環境は好転が期待されます。精密加工機は、国内デジタル家電メーカーの業績悪化に伴う設備投

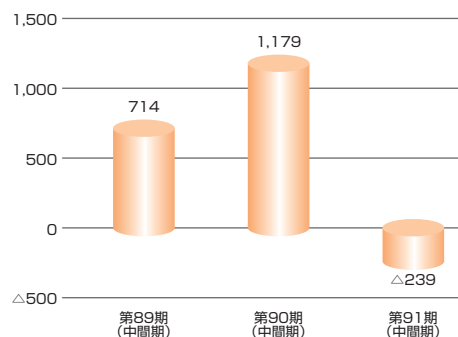
資の抑制による販売の低迷が続きましたが、中国および台湾のモバイル機器用の精密金型向けの需要が好転しつつあります。

この結果、工作機械事業全体の売上高は、101億4千6百万円（前年同期比22.5%減）、営業損失は、2億3千9百万円（前年同期は営業利益11億7千9百万円）となりました。

■売上高 (単位：百万円)



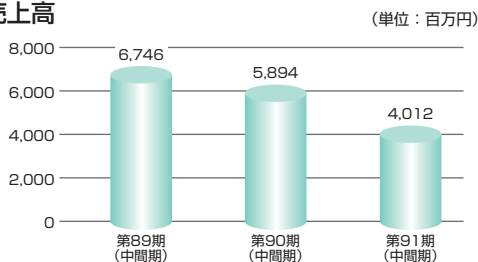
■営業利益 (単位：百万円)



## 油圧機器事業

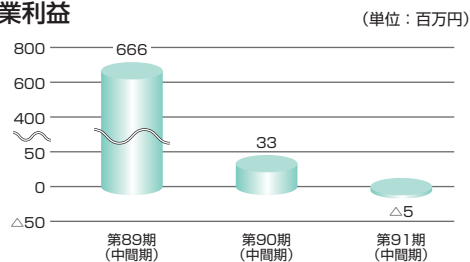
建設機械業界向けを主な供給先とする油圧機器は、国内においては東日本大震災による復興需要が続きましたが、海外では最大の供給先であった中国における建設機械の需要の低迷が続きました。

### ■売上高



この結果、油圧機器事業の売上高は、40億1千2百万円（前年同期比31.9%減）、営業損失は、5百万円（前年同期は営業利益3千3百万円）となりました。

### ■営業利益



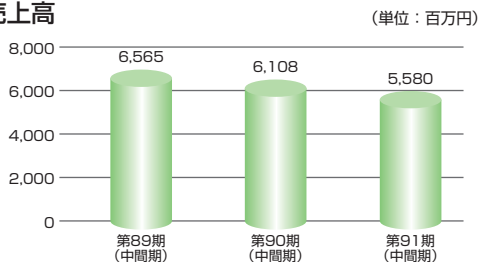
## その他の事業（電子制御装置など）

電子制御装置は、台湾・韓国をはじめとした海外の工作機械、産業機械関連業界向けの販売の低迷が続きました。

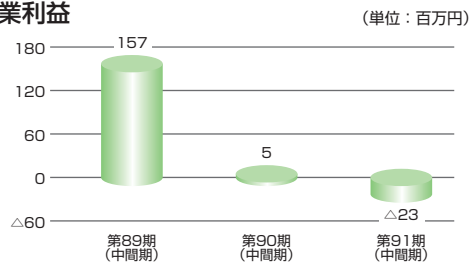
この結果、その他の事業全体の売上高は、55億8千万円（前年同

期比8.6%減）、営業損失は、2千3百万円（前年同期は営業利益5百万円）となりました。

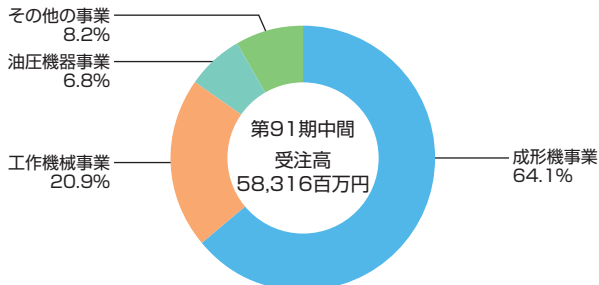
### ■売上高



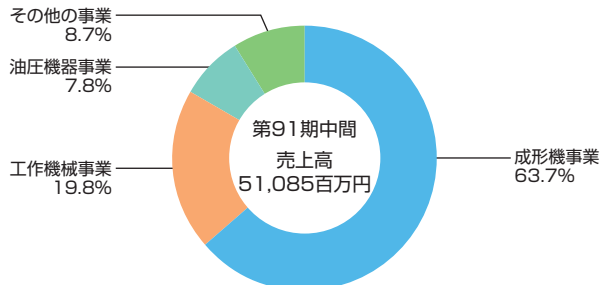
### ■営業利益



### 事業別受注高構成比率



### 事業別売上高構成比率



# 連結財務諸表

## 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第91期中間期 (平成25年9月30日現在)	第90期 (平成25年3月31日現在)	科 目	第91期中間期 (平成25年9月30日現在)	第90期 (平成25年3月31日現在)
<b>資 産 の 部</b>			<b>負 債 の 部</b>		
流 動 資 産	107,242	106,840	流 動 負 債	45,173	52,987
現金及び預金	20,452	21,327	支払手形及び買掛金	22,039	21,998
受取手形及び売掛金	33,289	40,006	短期借入金	11,051	16,859
有価証券	21,000	17,000	未払法人税等	706	2,642
商品及び製品	7,649	5,207	未払費用	5,109	5,628
仕掛品	20,470	18,569	製品保証引当金	581	584
原材料及び貯蔵品	391	67	その他の流動負債	5,685	5,275
繰延税金資産	2,417	3,177	<b>固 定 負 債</b>	<b>15,834</b>	<b>9,851</b>
その他の流動資産	1,764	1,626	長期借入金	5,300	-
貸倒引当金	△ 194	△ 142	長期未払金	8	14
<b>固 定 資 産</b>	<b>35,802</b>	<b>35,398</b>	繰延税金負債	1,744	1,273
<b>有 形 固 定 資 産</b>	<b>20,318</b>	<b>19,829</b>	退職給付引当金	8,640	8,411
建物及び構築物	10,182	10,194	役員退職慰労引当金	33	52
機械装置及び運搬具	2,749	2,834	資産除去債務	51	51
土地	6,577	6,192	その他の固定負債	56	48
リース資産	83	77	<b>負 債 合 計</b>	<b>61,008</b>	<b>62,839</b>
建設仮勘定	218	39	<b>純資産の部</b>		
その他の有形固定資産	507	491	<b>株 主 資 本</b>	<b>78,578</b>	<b>78,352</b>
<b>無 形 固 定 資 産</b>	<b>3,538</b>	<b>400</b>	資 本 金	12,484	12,484
の れ ん	3,047	-	資 本 剰 余 金	19,600	19,600
そ の 他	490	400	利 益 剰 余 金	56,533	56,306
<b>投 資 そ の 他 の 資 産</b>	<b>11,945</b>	<b>15,168</b>	自 己 株 式	△ 10,040	△ 10,039
投資有価証券	11,079	14,438	<b>そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額</b>	<b>3,458</b>	<b>1,047</b>
長期貸付金	137	92	その他有価証券評価差額金	2,886	2,221
繰延税金資産	50	64	繰延ヘッジ損益	△ 2	△ 0
その他の投資	733	634	為替換算調整勘定	573	△ 1,174
貸倒引当金	△ 56	△ 62	<b>純 資 産 合 計</b>	<b>82,036</b>	<b>79,399</b>
<b>資 産 合 計</b>	<b>143,045</b>	<b>142,239</b>	<b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b>	<b>143,045</b>	<b>142,239</b>

## 損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第91期中間期	第90期中間期
	(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)	(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)
売 上 高	51,085	62,950
売 上 原 価	36,613	44,954
売 上 総 利 益	14,471	17,995
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	12,866	12,452
営 業 利 益	1,604	5,543
営 業 外 収 益	1,421	1,404
営 業 外 費 用	554	720
経 常 利 益	2,471	6,227
特 別 利 益	7	3
特 別 損 失	14	9
税金等調整前四半期純利益	2,464	6,220
法人税、住民税及び事業税	414	1,301
法 人 税 等 調 整 額	924	679
少数株主損益調整前四半期純利益	1,125	4,240
四 半 期 純 利 益	1,125	4,240

## キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	第91期中間期	第90期中間期
	(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)	(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,545	6,694
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 601	△ 4,234
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,315	△ 1,305
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,267	161
現金及び現金同等物の増減額	1,895	1,315
現金及び現金同等物の期首残高	38,327	34,189
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	1,229	1,017
現金及び現金同等物の四半期末残高	41,452	36,522

## 連結財務諸表のポイント

### 資 産

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ8億6百万円増加し、1,430億4千5百万円となりました。増加の主な内訳は、受取手形及び売掛金が67億1千7百万円減少したものの有価証券が40億円、商品及び製品が24億4千2百万円、仕掛品が19億1百万円増加したこと等によります。

### 負 債

負債は、前連結会計年度末に比べ18億3千1百万円減少し、610億3百万円となりました。減少の主な内訳は、未払法人税等が19億3千6百万円減少したこと等によります。

### 純資産

純資産は、前連結会計年度末に比べ26億3千7百万円増加し、820億3千6百万円となりました。増加の主な内訳は、為替換算調整勘定が17億4千7百万円、その他有価証券評価差額金が6億6千5百万円増加したこと等によります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は57.4%となりました。

### キャッシュ・フロー計算書

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、前連結会計年度末に比べ31億2千5百万円増加し414億5千2百万円となりました。なお、当第2四半期連結会計期間における各活動によるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金は25億4千5百万円の増加になりました。これは主として、たな卸資産の増加42億7千8百万円等の支出があったものの、税金等調整前四半期純利益24億6千4百万円、売上債権の減少69億8百万円等の収入があったことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金は6億1百万円の減少になりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出4億2千4百万円等があったことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金は13億1千5百万円の減少になりました。これは主として、長期借入れによる収入53億円等があったものの、配当金の支払額6億8千4百万円、長期借入金返済による支出61億円等があったことによります。

## ■インドネシアに現地法人を開設

経済成長を続け、2億4千万人の巨大市場を有するインドネシアに現地法人PT. TOSHIBA MACHINE INDONESIAを開設いたしました。所在地は南ジャカルタ市にあり、高速道路と各工業団地へのアクセスも良好です。

2006年に開設した駐在員事務所（閉鎖）の機能に加え、サービス・部品販売が直接お客さまと取引できるようになり、部品倉庫とテクニカルセンターも備えております。

現在、日本人サービス駐在員やローカルサービス・営業員が活動中であり、日系・ローカル企業の新規進出や設備拡張、各マシンのリノベーション要求などに対応しております。

今後は、さらに同法人の機能を充実させお客さまの需要に応じてまいります。



インドネシア現地法人

## ■東芝機械グループソリューションフェア2013開催

5月16日から18日の3日間、当社グループの総力を挙げた「東芝機械グループソリューションフェア2013」が沼津工場および御殿場工場で開催されました。

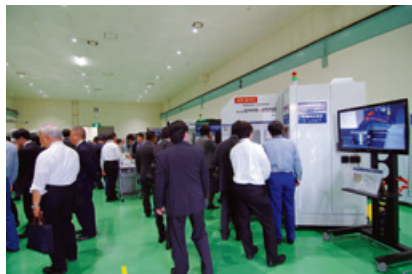
第11回目となる今年も期間中は好天にも恵まれ、過去最高の5,483名のお客さまにご来場いただきました。

今回の開催コンセプトは「先進と拡張”最適ソリューションの提供～そのチカラは、いつもあなたの近くに～」とし、各種成形機、工作機械、精密機器、油圧機器などの製品と、鑄造・機械加工、レトロフィット・アフターサービス、およびそれらを連携させたシステムエンジニアリングなどのトータルサービスまで、新製品、新技術を余すところなく展示し、見学いただきました。お客さまも稼働中の機械システムに足を止めて見入ったり、説明員に熱心に質問されていました。

また、外部講師をお迎えしての特別セミナーには、毎回多くのお客さまが来場され、好評を博しました。

当社グループのPR活動が功を奏し、会期中多数の引き合い、成約をいただくことができ、盛況のうちに終わることができました。

今後もお客さまのニーズを十分取り込み、お役に立てる商品を提供できるよう、さらなる進化を遂げながら次回以降の開催を続けてまいります。



展示会場の様子



特別セミナー会場の様子



## ■日本ダイカスト協会より「小野田賞」を受賞

5月23日に東京で開催された日本ダイカスト協会通常総会にて、当社が2012日本ダイカスト会議で発表した「ゲート方案・鑄造条件による溶湯射出状況の影響」の論文が、小野田賞を受賞しました。

本賞は1966年に発足し、2年に一度開催される日本ダイカスト会議で発表された論文の中から、優れた論文に対し授与される日本ダイカスト協会主要3賞の1つです。当社は、1972年、1981年、2010年に続き2回連続計4度目となり、従来2社選考でしたが、今回から1社選考のなか選ばれた、荣誉ある受賞となりました。

今回は、製品品質に重要な影響を及ぼす高速射出工程での充填性に着目し、ゲートより射出された溶湯の状態をハイスピードカメラで直接観察し、その画像の分析を行なうことを研究テーマとしました。発表後は多数のお客さまから動画の閲覧希望や、業界団体からの講演依頼があり、さらには「今後の展開にも期待している」といった激励も多く寄せられました。



日本ダイカスト協会通常総会で小野田賞を受賞



超高速ハイブリッドダイカストマシンDC350EH

## ■（新製品）電動式射出成形機 EC-SXシリーズを大型機分野に拡大

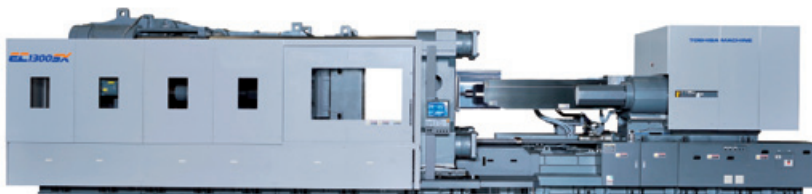
当社の射出成形機事業部は、射出成形機「EC1000SX、EC1300SX」の販売を開始いたしました。

当シリーズは、2008年11月に販売開始した「EC-SXシリーズ」（型締力50t～850t）を型締力1300tまで拡大したもので、「EC-SXシリーズ」のコンセプトである

- ①均一な型締力分布とトップクラスのハイサイクルを実現した新型締装置Solid Clamp
- ②力強い充填性能とスムーズな動きによる安定成形を実現した新射出装置S-Cube
- ③制御周期を高速化し、安定した繰返し性能を実現した制御装置INJECTVISOR-V50

などはそのまま継承されております。

加えて、小型精密成形で活用される性能・機能を踏襲し、大型製品成形における高生産性・精密安定成形に対応いたします。また、全電動トグル式射出成形機で業界最小の設置面積を実現するとともに、レベルパット据付対応（オプション）も採用し、大型射出成形機でも生産状況の変化に応じた工場レイアウトの変更が容易となっております。



電動式射出成形機EC1300SX

# 会社の概況 (平成25年9月30日現在)

(1) 商号

東芝機械株式会社  
(TOSHIBA MACHINE CO., LTD.)

(2) 本店所在地

東京都千代田区内幸町2丁目2番2号

(3) 創業

1938年(昭和13年)12月

(4) 設立

1949年(昭和24年)3月

(5) 資本金

124億8千4百万円

(6) 従業員数

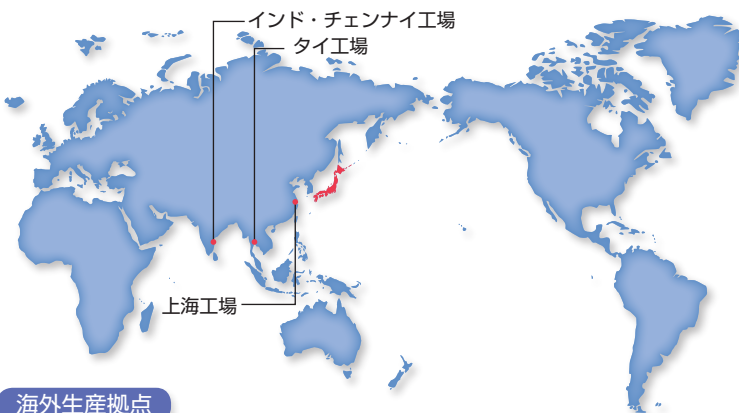
連結：3,482名(前期末比285名増)  
単独：1,877名(前期末比35名増)

(7) 役員(平成25年12月1日現在)

代表取締役社長	社長執行役員	飯村幸生
代表取締役	専務執行役員	岸本吉弘
取締役	常務執行役員	広中哲夫
取締役	常務執行役員	坂元繁友
取締役	執行役員	八木正幸
取締役	執行役員	辻村和夫
取締役	執行役員	高村克雄
取締役	執行役員	伊東寛弘
社外取締役	秋山良幸	
社外取締役	小倉輝孝	
常勤監査役	小野木尚介	
常勤監査役	鈴木慎和	
監査役	綿屋川	

(注) 常勤監査役 牧野輝幸、監査役 谷川和生の両氏は社外監査役であります。

(8) 主要な営業所および工場



●工場  
上海工場：TOSHIBA MACHINE (SHANGHAI) CO., LTD.  
インド・チェンナイ工場：TOSHIBA MACHINE (CHENNAI) PVT. LTD.  
タイ工場：TOSHIBA MACHINE MANUFACTURING (THAILAND) CO., LTD.  
(平成25年下期本格稼働)

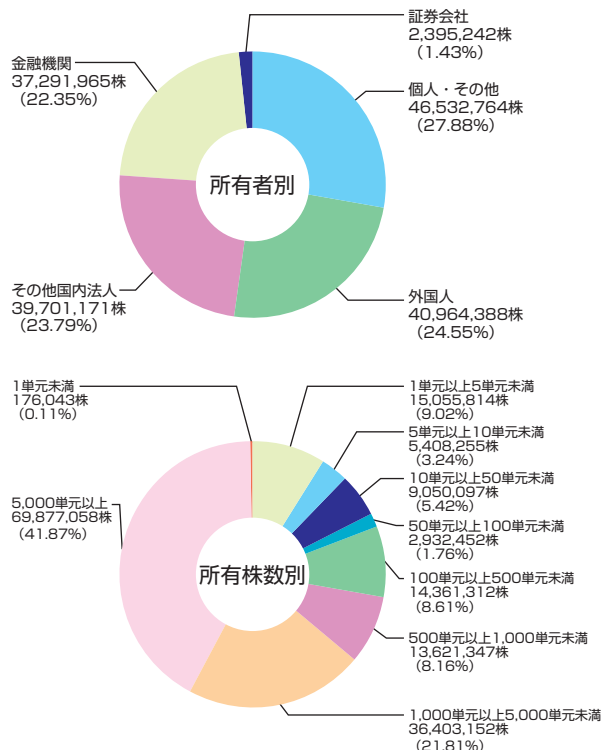
# 株式の状況 (平成25年9月30日現在)

- (1) 発行可能株式総数 360,000,000株
- (2) 発行済株式の総数 166,885,530株  
(自己株式14,854,686株含む)
- (3) 株主数 12,109名  
(前期末比880名減)
- (4) 大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
株式会社東芝	33,545千株	22.1%
ザチースマンハッタンバンクエヌイ ロンドンエスエルオムニバスアカウント	7,766	5.1
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	7,430	4.9
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 (信託口)	6,281	4.1
ジュニパー	4,002	2.6
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフ) サブアカウント プリティッシュクライアント	2,989	2.0
株式会社静岡銀行	2,980	2.0
東芝機械取引先持株会	2,699	1.8
株式会社三井住友銀行	2,682	1.8
トヨタ自動車株式会社	2,420	1.6

- (注) 1. 当社は、自己株式を14,854,686株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。  
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## (5) 株式の分布状況



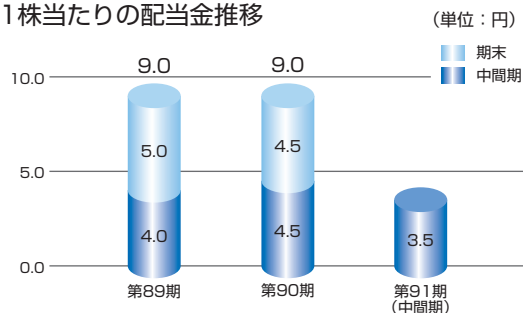
## 利益還元に関する基本方針

当社は、収益性の向上に向けて経営体質の強化を図りながら、安定配当を維持し、業績に応じた利益配分をしていくことを基本方針としております。

また、内部留保資金につきましては、財務体質の強化とともに、企業の継続的発展のため将来の事業展開等を戦略的に勘案し、生産設備、技術開発、海外展開等に有効に投資していく予定であります。

なお、当期の中間配当金につきましては、1株につき3円50銭とさせていただきます。

## 1株当たりの配当金推移



## ホームページのご紹介



東芝機械ではホームページによる情報開示を積極的に行なっております。財務情報や最新ニュースをはじめとするIRサイトも掲載しており、製品情報も含めて随時更新を行なっております。

<http://www.toshiba-machine.co.jp>

### 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 基準日 定時株主総会については3月31日  
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定める日
- 期末配当基準日 毎年3月31日
- 中間配当基準日 毎年9月30日
- 公告掲載新聞 日本経済新聞
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社
- 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)  
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の全国各支店でを行なっております。
- ・住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について  
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
  - ・未払配当金の支払について  
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

